



刈払機事故の4つの特徴

1 傾斜面・法面の不安定姿勢による事故

- 30～40°以上の傾斜地・法面は滑りやすい
- ⇒小段の設置、スパイク靴の着用

2 回転刃の事故(接触、飛散物)

- キックバックや小石、チップの飛散
- ⇒防護の徹底、飛散防止カバーを外さない

3 事前の環境確認で防ぐ事ができた事故

- 草むらの中に潜む構造物、異物
- ⇒慣れた場所でも、事前確認

4 エンジンを止めずに起こった事故

- 回転を止めず、草の詰まりなどを除こうとして
- ⇒確実に、エンジンを切ってから

1 傾斜面・法面で滑っての事故

傾斜面・法面に小段の設置を！

事例

最初に小段を設けた時、村の年寄りから「公の法面を傷つけるとは何事か」と怒鳴られたが、現在では、そう言った人を含め、村中の人々が小段を設けている。



傾斜面・法面に小段の設置、スパイク靴の着用

2 防護の徹底を！

回転する刃の危険から身を守る

事例 夕方4時半頃「ほんのちょっとの間」だからと、いつもは必ず着けるゴーグルをせずに草刈りを開始。開始3分後、目に何かが飛び込んだ。眼科で取り出してもらったのは、チップソーのチップだった。



3 作業前の環境確認を！

事例 「お盆も近づいたので、裏の草刈りでもするか」と草刈りを始めた。草丈約1m。わずか4m進んだところで、突然1.5mの深さの排水溝へ落下。アキレス腱断裂。



草むらに潜む構造物(穴、溜桝)や切り株、大きな石、空き缶などを、まず点検

4 エンジンを止めずに起こった事故!

事例

刃に絡まった蔓を取ろうと身を乗り出したとき、右手がスロットルレバーに触れ、回転刃が全開。指を切り裂く。



詰まり除去時や刈払機を置く時
エンジン停止!

自走式草刈機の事故

方向転換時に事故多発

事例

余裕がないところで方向転換をしようとして、排水路に引きずられ落下。右肋骨骨折。



直進時以外、要注意!
畦での方向転換用の踊り場の設置